

ふるさと再発見

崩山観音堂の鰐口わにぐち

崩山町の市道（旧島原街道）

沿いには桜井寺や今村刑場跡などの見所があり、白土湖から桜井寺に向かう途中に崩山の観音堂があります。

この観音堂は、眉山崩壊による大災害「島原大変」（1792年）の前から観音様が祀られており、島原大変で被害を受けました。その後再建され、今も近隣の人たちに信仰を受けてい

ます。

このお堂の参詣口に「鰐口」があります。鰐口とは、お参りする人が、綱をふり打ち鳴らすもので、下側の大きな口を開いた様子からその名がつけました。鰐口は面径31センチ、厚さ8センチで、表と裏に字が刻んであり、寛文10年（1670年）当時の

深江村の住民が、この世とあの世の安穩を祈って寄進したものと
言われています。また、三倉村の大津伝右衛門という人も寄進とありますが、製作者の可能性も考えられています。

島原大変の時にはこの鰐口も流されましたが、後に白土湖付近の水田で掘り出されました。

この鰐口は、平成4年、市の有形文化財に指定されています。

島原大変という大災害を乗り越えて今に伝わる貴重な遺物です。



クローズ アップ

Close Up!

「島原友の会」

「家庭から社会へいいと思うものを広げたい」。健全な家庭をはぐくみ、よりよい社会を創ることを目的に、衣食住や家計簿などを学習している「島原友の会」をご存知でしょうか。

友の会は全国的な組織で、県内にも三つの会があります。昭和21年に設立された「島原友の会」は、現在、30代から90代まで、31人の会員で活動しています。主に弁天町二丁目にある「友の家」に週1回集まり、読書や調理、家計簿など生活に役立つ内容を学習しています。さらに年に6回、手が不自由な人を対象としたリハビリ教室を実施し、手工芸の指導もしています。

島原友の会リーダーの田崎京子さんにお話を聞くと「現代社会は、人間



食の生活勉強会の様子

関係や子どもの食など、さまざまな家庭の問題を抱えています。友の会の活動は、生活で役立つ内容なので、特に子育て世代の人と一緒に勉強して、家庭生活で大事なことを伝えていきたいです。また、誰に相談してよいのかわからないときに友の会のベテラン主婦は頼りになりますよ」と話してくれました。

友の会の事業として、誰でも参加できる講習会が次のとおり開催されます。興味のある人は参加してみたいかがでしょうか。

家事家計講習会

●とき 11月17日（木）10時から11時40分まで

●ところ 島原友の家（弁天町二丁目）

●内容 基本の献立、家計簿、非常持ち出し品についてなど

●申し込み・問い合わせ先 田崎京子さん（☎0957-647697）